

■帯電防止効果 LT-9、LT-5

プラスチック成形品	カチオン型帯電防止剤	塗布方法	表面固有抵抗値 (Ω)	ダートチャンバーテスト
低密度ポリプロピレンフィルム	帯電防止なし	—	$> 10^{17}$	×
	LT-9、LT-5	浸漬	5.3×10^9	○
高密度ポリプロピレンブローボトル	帯電防止なし	—	$> 10^{17}$	×
	LT-9、LT-5	スプレー	1.4×10^{10}	○
ポリプロピレン射出成形品	帯電防止なし	—	$> 10^{17}$	×
	LT-9、LT-5	スプレー	1.2×10^{10}	○
ポリスチレン射出成形品	帯電防止なし	—	$> 10^{17}$	×
	LT-9、LT-5	浸漬	5.3×10^9	○
ABS射出成形品	帯電防止なし	—	$> 10^{17}$	×
	LT-9、LT-5	スプレー	5.3×10^9	○
硬質塩化ビニールシート	帯電防止なし	—	$> 10^{17}$	×
	LT-9、LT-5	スプレー	8.6×10^9	○

注： 1) 表面固有抵抗値は、塗布1日後に25℃、湿度40%RHの条件にて測定。

2) ダートチャンバーテストは、塗布1日後にトルエン燃焼煤を用いて測定。

〈評価結果〉 ○：ほとんど汚れない ×：非常に汚れる

■効果の持続性 LT-9、LT-5

ポリプロピレン射出成形品を浸漬処理したサンプルを実験室内に放置して、帯電防止性の経日変化を測定しました。その結果では、6ヶ月放置後でも十分効果が認められました。

帯電防止剤	表面固有抵抗値 (Ω)			
	1日後	7日後	1ヶ月後	6ヶ月後
LT-9、LT-5	1.2×10^{10}	2.2×10^{10}	8.3×10^{10}	1.4×10^{11}